

くすのき

Kusunoki



樟蔭学園は創立100周年
100th
Anniversary in 2017



サポートスクエア(学生サポート会館 清志館1F)

CONTENTS

● Feature Story — 100周年記念イベント

2015年度 「樟蔭百年」は 樟蔭学園で開催!

1

● SHOIN LABO — 「美しさをトータルで追究し、美容のプロを目指す」角田 憲一先生 3

● こもれびの窓 — 「気象予報士は人の命を守る仕事」三宅 惇子さん 5

● NEWS — 「新校舎の完成を祝う竣工式典」ほか 7

● WingBEAT! — 「行動を起こした先にチャンスと学びあり!」●●●●さん 14

● CLUB NAVI — 大学 ホステリング部 15

● Information — イベントのお知らせ 17

● FORUM — 「新任教員紹介」ほか 20

● 平成26年度決算概要報告 21

● リレー★コラム 石蔵 文信先生 & STAFF@SHOIN 谷内 仁美さん 23

はばたけ、知性。





樟蔭百年

Feature Story — 巻頭特集 —

2017年、樟蔭学園が創立100周年を迎えるにあたり、プレイベント「樟蔭百年」を開催しています。

昨年は大阪市北区のグランフロント大阪で開催。樟蔭の過去・現在・未来を紹介し、多くの方に学園の伝統を感じてもらうことができました。

今年は大坂樟蔭女子大学のキャンパス統合と新校舎の完成で学園の風景が大きく変わりました。

卒業生の皆さま及び先生方や地域の皆さまを学園にお招きしようと催しを企画しました。この機会にぜひ、新しい学園に足をお運びください！

2015年度「樟蔭百年」は 樟蔭学園で開催！



11月14日(土)「樟蔭園遊会」

時間: 11:00~20:00(予定)



旧交を温めていただける場を設け、新しい樟蔭を堪能していただくイベントです。在学生によるパフォーマンスやショーのほか、懐かしい動画の上映や記念撮影会も予定しています。夕方にはイルミネーションの点灯も企画しています。同窓会やクラス会を兼ねて、ご友人とお越しください。恩師が皆様を待っています。参加される方は同封の申込書にご記入のうえ、下記100周年記念事業本部までFAXにてお申し込みください。



8月8日(土)「樟蔭夏まつり」

時間: 11:00~19:00



地域の皆さまをお招きする河内音頭家元である河内家菊水丸さんと樟蔭高校の生徒による「樟蔭オリジナル河内音頭」を披露し、地域の皆さんと一緒に踊る大盆踊り大会を開きます。大学生・中高生・幼稚園児のライブパフォーマンス・ショーのほか、学生による夜店や間伐材に絵を描くなど子どもが楽しめる体験コーナーも企画しています。

11月21日(土)中村修二教授 講演会

時間: 14:00~15:00



2014年ノーベル物理学賞受賞
カリフォルニア大学サンタバーバラ校

テーマ: 青色発光ダイオードの発明と生活への応用
※入場無料。参加申し込みが必要となります。

お申し込み方法

メール、またはFAXにて、①住所②氏名(フリガナ)③年齢④性別⑤電話番号⑥FAX番号またはメールアドレスをご記入のうえ、下記の100周年記念事業本部までお申し込み下さい。

8月8日、11月14日 同日イベント(予定)

田辺聖子文学館 特別展



樟古館・学園 歴史資料展示



大阪樟蔭女子大学

学生×企業 コラボ商品の販売

食品や化粧品、婦人洋品など
学生が企業と連携して開発した
商品を紹介・販売します。



お問い合わせは
100周年記念事業本部 TEL:06-6723-8152 FAX:06-6723-8263 E-mail:100th@osaka-shoin.ac.jp



美しさをトータルで追究し、美容のプロを目指す

角田 憲一 先生

大阪樟蔭女子大学
学芸学部被服学科 教授

化粧品専攻の美容コースは今年2回目の卒業生を送り出しました。美容師国家試験の合格率は2年連続100%。美容、ウエディング、化粧品業界などへ就職し、活躍の場を広げています。角田憲一先生は4年制大学ならではの豊かな教養を身につけた「次世代型の美容のプロ」を育成することを目指しているといいます。角田先生に聞きました。

店で教えたのが始まり

27歳のときに岡山県倉敷市で美容室を始めました。当時は、通信教育で学びながら美容師の国家試験を受ける人が多く、その子たちを集めて店でトレーニングしていました。頑張っている子を見ると応援したくなって、店に集めて教え始めたんです。それが指導者としての始まりです。

専門学校で教えることになったのは43歳。学校は担任制で、ほぼすべての授業・実習を教えていました。この子たちをなんとか美容師にしてあげたい。そんな熱意で指導していましたから、教え子の合格率は100%でした。育てる楽しさを知りましたね。樟蔭から声をかけていただいたのは2008年。専門学校とは違う美容師の養成に挑戦してみようと引き受けました。

2010年に美容コースを設置

人の暮らしに欠かせない衣食住で、「食」を通じて人間を育てる「食育」は定着しつつありますが、「衣」の分野にあたる「装育」はまだまだ。そこで化粧品をキーワードにした「装育」を実践するため2007年、被服学科に国内初の化粧品文化専攻が設置されました。2010年に化粧品専攻美容コースを開設しました。美しさをトータルで追究する美容のプロを育てようと考えたのです。美容師国家試験の受験資格の取得をカリキュラムの中心に据えた4年制大学では珍しいコースです。

実技だけでなく、体のメカニズ



美容実習室全景



学生が企画・編集した卒業制作作品集

かくだけんいち
岡山県出身。1958年生まれ。管理美容師。専修大学商学部卒業。元全国美容生活衛生同業組合連合会理事。岡山県理容美容専門学校講師、順正短期大学保健科美容デザイン専攻教授を経て2010年4月から現職。専門分野は美容学。



ムや髪の毛の仕組みはもちろん、メイクやネイル、エステから経営、接客理論、心理学、着物の着付けまで幅広く勉強します。さらにコミュニケーション能力や自己アピール力なども身につけます。

歴史は学生が作る

1期生が巣立つまでの4年間は手探りでした。美容師を目指すには2年制の専門学校で実技を学ぶのが一般的。ですから4年制大学と専門学校との違いを明確にしなければなりません。定員割れしていたこともあってずいぶん気を採みました。でも美容コースの歴史を作るのは学生自身です。「樟蔭の美容コースの卒業生です」と胸を張って言えるような人生を送ってほしい。学生にはそう言い続けてきました。

ようやく「樟蔭の学生に来てほしい」と企業から声が掛かるようになりました。こんなに早く認めてもらえたことに正直、驚き、喜んでいました。同時に社会に出た卒業生が価値を高めてくれているんだと誇らしく思いました。4年制大学で美容のプロを育てる方向性は間違っていないと実感しています。



学生のそばにすることが大事

学生のそばにということに大事にしています。学びは押しつけではダメです。自分から動き出さないと意味がありません。面白いもので、20歳になると目の輝きが変わってきます。ゆっくり歩んでいたカメがウサギを追い抜くように実力をつけていく学生もいます。授業が終わったあと、実習室で実技の練習をする学生も多いのですが、先輩から後輩にアドバイスする姿も見られるようになり、美容コース全体が活気にあふれているのはうれしいことです。

「美容師の育成」が私の専門です。学校の成績優秀者が社会でも通じるといえば、そうではありません。人間性が重要になってきますね。



長い人生では失敗もします。その時にどう立ち直るかが勝負だと思っていますから、私の失敗談を話したり、学生の悩みを聞いたりしながら、授業以外でも彼女たちの学びにつながれば、と指導しています。

また、美容師にとって店で働くのは感性を失わないという意味ではとても大事なことです。指名してくれるお客さんがいる限りは続けようと思っていますから、今でも月に数回は岡山へ戻って、店に出ていますね。

活躍の場を広げるチャンス

入学時に美容師になりたいと決めているのは3分の1ほど。美容に興味があるけれど、将来はまだ決めていない学生も多いのです。4年の間にやりたいことを見つけ、活躍の場を広げるチャンスと捉えて学んでほしいと思っています。また、美容は福祉分野でも注目されており、学生には限りない可能性を持っている分野だと気づいてほしいです。美容師国家試験に合格した卒業生の中には大学院へ進学し、ヘアケア剤の研究をしている学生もいます。学んでいくうちに自ら進む道を決めました。彼女たちの頼もしい姿を見ていると、これからも美容を通じて、社会に貢献できる人材を育てていきたい。そう思っています。

◆角田先生からのワンポイントアドバイス◆

髪には体のコンディションが表れます

ヘアケアというと、毛髪の部分だけに注目しがちですが、体のコンディションが髪に表れます。髪は全身の健康状態を表すバロメータでもあります。体が健康であれば、髪も自然に美しくなるのです。早寝早起き、バランスのよい食事と適度の運動を心掛け、「幸せ」と感じる毎日を送ってほしい。それが髪にも体にも一番の栄養です。

「気象予報士は 人の命を守る仕事」 役立つ情報を届けたい 三宅 惇子さん

気象予報士、防災士
2001年3月、樟蔭高等学校卒業

みやけじゅんこ ● 奈良県大和郡山田市出身。2005年、関西大学総合情報学部卒業。2010年に気象予報士の資格を取得。ネクスコ東日本東北支社「ドライビングウェザーチャンネル」キャスターを経て、2012年5月～2015年3月、NHK仙台放送局の気象情報を担当。2015年4月からNHK大阪放送局「おはよう関西」（平日7時45分～8時）、「ぐるっと関西おひるまえ」（月～木曜11時30分～12時、金曜11時5分～12時）のキャスター。2013年に和菓子コーディネーターの資格も取得。

気象に関するさまざまなデータを収集・解析し、わかりやすく伝える気象予報士。その資格を生かし、今年4月からNHK大阪放送局の「おはよう関西」、「ぐるっと関西おひるまえ」の気象キャスターを務める三宅惇子さん。的確な予報と親しみやすい語り口で早くも人気を集めています。日々、大阪の空をみつめている三宅さんに伺いました。

小さいころから空と音楽とダンスが好きでした

奈良県で育ち、小さいころから自然がすぐそばにありました。空を見



上げると、いろんな形の雲が大きく見えるんです。面白かったですね。夏は白いもくもくとした入道雲がきれいだなあと眺めていました。中学校、高校時代はダンス部に入り、人前で表現する楽しさを知りました。将来は作詞家や作曲家、歌って踊れるアーティストなどを夢みながら、作詞や作曲の勉強を始めたのもそのころ。歌とダンスで生きていくものだと思っていましたね。



「好き」が繋がった気象予報士

その大好きな歌とダンスの夢を断念したのは24歳のとき。しっかりと地に足をつけ、人前で自分を表現できることって何だろうって考えました。作詞ノートを見返すと、そこには空や雲、天気を盛り込んだ詩がたくさんありました。空が好きだったんだあって改めて気づき、気象予報士になろうってそこから猛勉強でした。問題集を見ると数式ばかりでちんぷんかんぷん。中高時代の教科書を引っ張り出して一から学び直しました。

歌とダンスをあきらめた私です。気象予報士も中途半端にあきらめたら、一生同じことの繰り返し。それは嫌でした。ですから合格するまで受けてやるぞって思い、心が折れそうになながらも挑戦し続けました。それから3年半、7回目ようやく合格したときは「これを一生の仕事にしよう」と決めました。「好き」が全部つながった結果が気象予報士だったんです。



高校3年生。全国高校・大学ダンスフェスティバル。音響賞を受賞したダンス



高校時代の友人と



仙台時代 講演会にて

た。基本をおろそかにせず、人の命を守る仕事をしている、そう自覚しながら、日々、精進していきたいですね。

人の命に関わる仕事

コーナーの予報は基本的に個人の責任なので、最新の気象レーダーを見て、自分なりに解析して判断しています。ですから生放送のオンエアギリギリまでデータとにらめっこです。雨と予報し、私もレインブーツを履いて来たのに1滴も雨が降らなかった「失敗」もありま



仙台時代の番組

す。雨と予報して、晴れたらまだいいのですが、その逆は……。豪雨になって土砂災害でも発生したらやりきれません。NHK仙台放送局時代、予報をはるかに超える局地的な大雨となり、土砂災害が起きました。貴重な人の命を守れなかったことでずいぶん落ち込んだりもしました。気象予報士は人の命に関わる重い仕事だと思い知らされました。同時に伝え手としての責任を実感しました。仙台での3年間、何度も失敗しながら学ばせてもらったことが大きな糧になっているんです。テレビは聞き直しができません。一度聞いただけで分かる言葉を使うよう心がけています。それに女性ならではの目線で生活に密着した情報を組み込んで伝えるようにもしています。でもあくまで根底は情報で人の命を救いたい。その思いで毎日、伝えています。テレビは華やかな世界だと思っていましたが、決してそうではありませんでした。現場はすごく地味な仕事の積み重ねで、正直、驚きまし

チャレンジ精神を養ってくれた樟蔭

とびきり優秀な生徒ではありませんでしたが、努力すれば結果がついてくることを身をもって知りました。どうしたら成績が上がるのか、先生に尋ねたこともありました。先生からアドバイスをいただき、自分なりの勉強方法を見つけると、目に見えて成績が上がるようになりました。ダンスも同じです。納得のいく演技をしたいと懸命に練習しました。「やればできる」。そんなチャレンジ精神を養ってくれたのは樟蔭です。恩師の青木郁美先生にダンスを通して自己表現の楽しさを教わったことも大きな宝となっています。私は社会人になって今の仕事と巡り合いました。ですからみなさんも若いうちに可能性を狭めないでほしい。いろんなことに興味を持って、とことん学んでいけば、世界が広がっていきます。「やればできる」。そう自分を信じて、未来を切り拓いていってほしいと思っています。



番組リハーサル風景



学園

新校舎の完成を祝う竣工式典

4月25日(土)、清志館5階で新校舎の竣工式典を行いました。また、式典後の披露宴を翔空館10階で開き、約300人の本学園の関係者が集い、和やかな雰囲気の中で完成を祝いました。祝宴は森眞太郎理事長の開会の挨拶で始まり、100周年を記念して開催するイベント「樟蔭百年」の今後のスケジュールなどを紹介。新校舎の見学会も行い、リニューアルしたキャンパスを披露しました。4月からすべての学部学科が小阪キャンパスに集結し、一層賑やかなキャンパスとなっています。お近くに来られた際は、ぜひお立ち寄り下さい。



イベント報告



樟蔭同窓会総会と東京支部総会が開かれました

樟蔭同窓会の総会が5月17日(日)、大阪市天王寺区のセラトン都ホテルで開かれ、約180名の卒業生が参加しました。同窓会の運営、活動報告、今後の活動などの報告が行われた後、パーティが開催され、ピアニストの鈴木華重子さんによるピアノ演奏や福引き大会などで大いに盛り上がりしました。また、6月2日(火)に東京都のホテルニューオータニで東京支部総会が開かれ、約110名の卒業生が集いました。今年のアトラクションは声楽家、井上淳子さんの幅広いジャンルの歌声に聴き惚れました。旧制の先輩方も元気な姿をみせてくださり、年に一度の世代を超えた楽しい交流の場となりました。



東京支部総会



樟蔭同窓会総会

イベント報告



高松市で「樟蔭のつどい2015」を開催

中国・四国地域にお住まいの卒業生の皆さまと交流を深めることを目的とした「樟蔭のつどい」を5月30日(土)に香川県高松市の栗林公園内の「花園亭」で開きました。この集いは樟蔭同窓会岡山支部設立準備委員会が主催し、理事長をはじめ、同窓会本部役員の方々、卒業生18人が参加しました。昼食をいただきながら語り合ったり、準備委員が工夫を凝らした福引きや校歌を歌うなど、来年の再会を楽しみにしながら終了しました。

イベント報告

大学・大学院

第7回田辺聖子文学館ジュニア文学賞 表彰式

全国の中学生・高校生を対象にした「第7回田辺聖子文学館ジュニア文学賞」の表彰式を3月24日(火)に開催しました。最高賞となる田辺聖子賞に輝いた近畿大学附属豊岡高校2年の●●●●●●さんらに賞状や賞品などが手渡されました。



表彰

本学から4人が入賞!

受賞者

- ◆読書体験記中学生の部
優秀賞:●●●●●(中3年季組)
佳作:■●●●●(中2年季組)
 - ◆読書体験記高校生部
佳作:▲▲▲(高2年雲組)
 - ◆川柳部門
優秀賞:★★★★(高1年冬組)
- ※入賞当時の学年で表記しています



ジュニア文学賞は、表現力豊かな若い世代の育成を目的としています。回を重ねるごとに応募数が増えており、今回も昨年を上回る2万8318点の応募がありました。中西進館長・田辺聖子さん・林真理子さんらが審査し、105作品の入賞を決定しました。表彰式に続き、歴史小説「恋歌」で直木賞を受賞した作家の朝井まかてさんが講演。「誰かに読まれることによって、はじめて作品が完成すると思います。皆さんのこれからの人生という物語の可能性を広げていってください」とメッセージを送りました。

本学の袴プリンセスが一日警察署長を務めました

活動報告

昨年の若樟祭(関屋)で袴プリンセスに輝いた児童学部4回生の●●●●さんが5月11日(月)、香芝警察署の一日警察署長を務めました。春の全国交通安全運動(5月11~20日)の一環。樟蔭伝統の袴姿に身を包んだ●●●●さんはパトロールに出発する警察官のみなさんの前で、交通安全の宣誓文を読み上げ、安全運転の大切さを伝えました。その後、パトカーに乗り、管内の事業所を訪問。「正しい交通ルールとマナーの実践を」とメッセージを読み上げ、交通安全を呼びかけました。



被服学科の学生が国勢調査をPRする横断幕を作成

活動報告

被服学科被服学専攻の学生が9月に始まる国勢調査をPRする横断幕をデザインしました。東大阪市の依頼を受けて作成した広報用の横断幕は、縦90センチ、横5メートル90センチ。森優子准教授の生活デザイン研究室に所属する学生3人が東大阪らしいデザインを考えました。●●●●●●さん、■●●●●●さんは「東大阪はラグビーのまちというイメージからラグビーボールを背景にし、女子大生にも注目してもらえるよう全体をピンク色の優しい色合いにしました。同世代の学生に国勢調査をPRし、ぜひ回答してほしい」と話していました。



くすのき地域協創センター イキ×ラボ

「くすのき地域協創センター」が始動しています

活動報告

大学の地域連携の「顔」となる「くすのき地域協創センター」(愛称:イキ×ラボ)が本格始動しています。行政、地域と連携しながら、まちづくりや地域課題の解決、地域の活性化を推進する活動拠点です。教育・研究・地域連携の3つのテーマを柱にし、

様々なプロジェクトを進めています。その中のひとつ「女子大生が提案する家プロジェクト」は「自分たちが将来住みたい家」をテーマに実際に家を建築し、販売するものです。児童学科の学生8人がこのプロジェクトにエントリーし、香芝市、株式会社垣本ハウジングとミーティングを重ね、学生の思いや考えが詰まった家を作っています。他にも、香芝市では、杉山ニット工業との連携による「合格祈願靴下開発プロジェクト」、東大阪市と連携した「子育てカレッジ」、小阪商店街の活性化を目指す「子どもの集まる商店街」などを展開しています。また、学生がやりたいコトに挑戦する「イキ×ラボ



「女子大生が提案する家プロジェクト」チャレンジプロジェクト」には今年、グリムプロジェクトやキャンドルナイトなど4団体が選ばれ、それぞれの活動を開始。センターは学生視点の地域貢献活動をサポートしています。今後の活動にご期待ください。